

# 陽の里

発行 平成14年1月1日



社会福祉法人 新生会  
総合ケアセンター

サンビレッジ

No.77

2002年 **テーマ** 第8回「職員育成の一環として II」



▲毎年元旦に白鳥神楽を見るのが恒例となっています。

## 研修の意義、研修へのおもい

高齢者痴呆介護研究・研修大府センター  
主任研修指導主幹 沖田 裕子

介護の現場で働く人が、さらに技術や知識を得るために様々な研修に参加します。これらの研修は、ほとんど外部機関によって企画されるものです。このような外部機関が主催する研修が、なかなか実務レベルを向上させられないのには、次のような問題点が考えられます。

(1) 実務者が企画に参加したものが少なく、実践にすぐにはいかせない。

(2) 段階をおって内容が習得できるものが少ない。

(3) 参加して刺激をうけても実践に帰ると、職場の他のスタッフの共通理解を得にくい。

サンビレッジ新生苑で実施されている内部研修は、これらの問題点をみごとにクリアーしています。多くの高齢者福祉施設では、新採用時に数日の内部研修を行うだけです。

新生苑では、3ヶ月余にわたる新人研修だけでなく中堅研修、リーダー研修と就職して3年以上の職員にも段階をおって研修が行われ、これらの指導、企画には現場の職員が参加しています。

このようなサンビレッジ新生苑の研修スタイルから、実務者の研修のあり方について学ぶことが多くあり、現在研究の協力いただいています。私の勤める研修大府センターには、各府県から、痴呆介護実務研修を行う指導者を養成するという役目があります。この指導者養成研修に、新生苑で行われている研修から学びを活かしていきたいと思えます。

新年あけまして  
おめでと〜うございます。

理事長 石原 美智子

昨年は、皆さんはどのような年でしたか。何だかとも一年が早いように思えますが、如何でしょうか。

私にとっての一年は、公私ともに大変有意義な年だったと感謝しています。

個人的には、念願のエジプト旅行が叶いました。近代的なホテルから歩いても行くことができる距離に、



数千年前にできたピラミッドが聳える世界、富と貧困の渾然と混ざり合った様子を肌で感じて、想い出深いものになりました。そして今ではこの国もテロ事件のために訪問も不可能になってしまったのですから。

仕事の面では、県知事のお声掛けで始まった「ふるさと福祉村」構想の本格

的な仕事に入りました。これは私たちが暮らしているこの地域を、本当に安心して老いることができる地域にする、夢のある大きな仕事です。そのような地域ができれば、そこがそのまま人々の地域医療のあり方、生活支援の仕方、高齢者や障害を持つ人々の住宅や町のあり方、住民の生き方など、様々な学びをする場になり、「校舎のない学校」の機能を持つことになります。

今年も専門学校に新しい学科が増設されます。それは言語聴覚学科といって、言葉の訓練と嚙下の支援をする専門家の養成です。これで学校は地域で生活をする上で必要な介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士の専門家の養成が可能になりました。

今年もお互いに、幸せを感じられる充実した一年でありますように。

「あい はぶ あ どリーむ」

著者 石原美智子

時事通信社発行の「税務経理」「厚生福祉」の巻頭言がサンビレッジ新生苑生誕25周年を記念して、一冊の本になりました。理事長石原がホームの成長と共に得た人生哲学と、痛みや苦しみを共有できる社会づくりへの夢が語られています。



サンビレッジ新生苑  
専門介護セミナー(PCS)

PCS (Professional care seminar) は、他施設等を対象として私達が求め続けていきたい「介護の質の専門性」を共に普及実践に広げて、生活の質(サービス)の向上を図っていききたいという想いで開講しました。

PCS研修に参加して  
やまゆり荘 矢澤 敦子

私は、愛知県奥三河にある特養やまゆり荘で、介護の仕事をしています。介護の専門性とは何か、どのようにお年寄りと接していけば良いのか、私の働く施設において何ができたのかを問うため、研修に参加しました。

ひまわりホールでは、朝から苑のお年寄り、地域のお年寄りが集まり、それぞれが好きなように動いていました。ある人は針と布を手に持ち、ある人は習字を、ある人はフカフカのソファでテレビを観て。苑という孤立した空間ではなく、社会の中の苑、地域の一部である施設がそこにあると感じました。

体験実習では、片麻痺・車椅子

子で半日過ごし、ほんの小さな石にひっかかって進めなくなったり、アスファルトのデコボコにはまったり、少しの坂が登れなかったりで、今まで何げなく「頑張つて」と声かけしてきたことを反省したり、自分の無力さに気付かされたりしました。

サンビレッジとやまゆり荘のどこが違うのか。一つには、職員の姿勢。理念・理想がしっかりと根付いていること。二つには、専門的知識・技術が各種研修等で身につけていること。これらの事を通して、職員一人ひとりが自信と誇りを持って働いておられました。

私はお年寄りが好きです。そばに居られ、お世話させていただけれることに喜びを感じます。今回の研修により、たくさんのお土産を持ち帰ることができました。すぐにできること、時間はかかるがやらなければならぬことを、あせらず、あきらめずやっつけていきたいと思えます。

私は「求道」という言葉を大切にしています。これからもお年寄りと共にこの道を歩いていく自信が持てました。苑のみなさん、職員の方々、いろいろ教えていただき、本当にありがとうございました。



当施設の職員研修・教育について

業務推進部長 立木 孝幸

サンビレッジ新生苑は、昭和51年の開設来、今年度で26年目を迎えます。幸い当施設は、20年以上前から職員がオーストラリアの福祉を現地で勉強できる機会にも恵まれ、「基本理念」を共有化すべく、現在表にありますように、様々な職員の研修に取り組んでいます。「福祉は人なり」「職員の質は施設の命」今後も弛まぬ資質向上に努めて参ります。

【当施設の主な研修体系】

研修名	主な内容等
新入職員研修	毎年度3月から3ヶ月間、全新人職員が同じ研修を受けます
職場研修(パート研修)	年々多くなる非常勤職員等を対象に行う研修です
OJT中堅職員研修	入社後概ね3年目程度の職員を対象に、現場での問題解決を図ります
リーダー研修	各部署リーダー(責任者)として基本的な介護技術のチェック等
海外研修	オーストラリア(姉妹提携)・デンマークの福祉文化を体験
施設内研修	寝たきり体験・拘束体験・車椅子体験・おむつ体験・他部署研修
施設外研修	他施設に宿泊研修や住宅ヘルパー同行、全国福祉施設大会発表等
1人1事例提出	この一年の総括として、ケアプランの推進事例を提出し、発表

## 体験実習の主旨

サービスクラス評価委員会

委員長 田口友子

(栄養士)

サンビレッジ新生苑では、利用者、家族、地域の皆様からの苑に対する苦情、ご意見をいただき検討、改善を図る評価委員会があります。弁護士、学識経験者、民生委員の代表の方々による外部の評価委員会は、客観的にそして広い視野で施設の評価活動を行い、職員による内部の評価委員と共に利用者の生活がより豊かに、地域と共に安心して暮らせるよう話し合いを重ねていきます。

ご感想を伺おうというものです。



昨年度は、施設の職員が同様に体験を行い、障害をもつと「こんな所が大変。こんな所に注意してくれたら：」と学ぶことが多くありました。この度の体験では、職員とは違った目と角度で苑に対する評価をいただきました。また、「思いがけず、自分の老後や社会を見つめる良い機会であった」との声も聞かれました。障害を持って普通にも暮らせるよう、体験学習を活かして社会創りを進めたいと思っております。

## 一日体験学習を終えて

興文中教諭 白川勇一

福祉や介護について自分も生徒とともに学習したいと思ひ、この募集に参加しました。全身麻痺の障害者として食事介護を受けたり、半身麻痺の障害者として車椅子で過ごしたりする中で、私は今までの生活では分からなかったことを、身をもって知ることができました。一つ目は、車椅子で座り続けることの辛さです。ただ座っているだけのことが、3時間、4時間とたつと、とても辛くなってきます。そつと立ってお尻を楽にしたいと何度思ったことでしょうか。しかし、それはできませんでした。なぜなら私のまわりには、車椅子に座ることしかできないお年寄りばかりだったからです。

二つ目は、寝たまま食べられる食事の辛さです。初めは

寝たままなんて楽でいいと思つていましたが、いざ始めるとこれがなかなか難しいのです。たったスプーン一杯のものでも、これをのどに通すためには、今まで感じたことも使ったこともない、飲み込むための力があるのです。常に寝たままではしか食事ができない人の思ひを初めて知ることができました。たった半日の模擬体験でしたが、介護の必要性とともに、介護する人、介護される人のそれぞれの大変さを肌で感じる事ができた、大変貴重な体験でした。

